

一般質問通告書

【第64回定例会】

多可町議会議長 河崎 一 様

多可町議会議員 廣畑 幸子



印

受領日	番号
平成27年5月29日 午前・午後5時00分	2

質問の項目及び要旨	答弁を求める者
1. 多可町版健幸ポイントを作ろう	町長
別紙参照	
2.	
3.	

質 問 の 内 容

多可町でも、「多可町版健幸ポイント」を作りませんか

この「健幸ポイント」というのは、近いところでは大阪府高石市や岡山県岡山市など複数の市で取り入れられているもので、「歩く・もらえる・若返る 健康とポイントをWで取ります！」というポイントプロジェクトです。

この健幸ポイントプロジェクトですが、「健康で幸せな毎日を長く続けていくために、健康作りを応援するためのプロジェクトで、運動を行うきっかけ、あるいは運動を続ける動議づけになることを目的に、日々の歩行や運動に励もうとする方に対して、ポイントを差し上げる仕組みです。

ポイントが付くのは、例えば入会したよポイントや、がんばってますポイント、行きましたポイント変わりましたポイント。中には検診受けたよポイントというのもあります。

この事業ですが、総務省からの委託事業を受けたもので、「みずほ情報総研」「筑波大学」「みずほ銀行」「つくばウエルネスリサーチ」が、高石市や岡山市を含めた6市で、健康作り無関心層も含めた多数の市民を、健康作りに誘引できる、インセンティブ制度の大規模実証を開始しています。もちろん、実証は今も続いていますしこの事業をそのままというわけではありませんが、この考え方を多可町でも工夫して、多可町版健幸ポイント制度を作るべきだと思います。

多可町では健康保養地事業が動いています。コースの開発、人材育成などが動いています。この事業目的に、『町民の健康増進と生活を向上させることで、将来にわたり、生き生きと自分らしく暮らせるように「健康寿命」を延ばす』というのが挙げられています。この事業と一緒に考えることができるのでは無いでしょうか。

また、多可赤十字病院に、6月1日より心身の健康増進、筋力アップ、日頃の運動不足解消など、それぞれの目的に合わせて利用できる、新しい施設が開設しました。この新しい施設ともタイアップして、健康寿命を延ばしていこうではありませんか。

27年度からは、今まで国の事業であった、介護支援の部分が町に移管という形に代わり、町の負担がますます重くのしかかってきます。以前にも申しましたが、要支援からの卒業は、必要なことです。

また、元気で健康な人を増やすこと、元気で暮らし続ける人を増

やすことは、大変重要なことです。

多可町の介護給付額ですが平成26年度の見込額は20億2088万9605円です。平成21年度は18億0425万9780円で、約2億1663万円増えています。

同じように国民健康保険を見ますと、一般の療養給付費ですが、21年度から26年度では約1億3372万円増えています。このまま増え続けて良いのでしょうか。

もちろん、病気にかかることが避けられないこともあります。介護サービスを必要とされる方がおられるのも致し方ないことです。

しかし、これから高齢者と言われる年代に入っていくものが、元気で過ごし続けられる事は、誰しも望むことです。高齢になっても自分らしくそして、自分のしたいことができる幸せは、何にも代えがたいものです。

要支援の方が、元気になって要支援から卒業できるのも大事なことです。

ちなみに、多可町の高齢化率は、5月1日現在で32.05%です。60歳～65歳未満は7.4%、50歳～60歳未満は12.67%です。

この数字を見ても、早急に考えるべきと思いますが、いかがですか。